

意見交換会にあたり寄せられた市民の声

— おはなし会の関係者はじめ、守る会の会員以外の方々から —

このたびの意見交換会の開催にあたり、守る会の会員以外の方々にも「市に伝えたいことがあればお知らせください」と呼びかけたところ、次のような声が寄せられました。明らかな誤記を除き、原文のまま掲載しています。

※ 市の意見募集(184 件)や、これまでに守る会へ寄せられた意見(698 件)とは別に、今回新たに寄せられた声です。中央図書館の早期整備を望む声も、いただいたとおり掲載しています。

1. 羽ノ浦・那賀川図書館の蔵書と貸出について

【ご高齢の方々の利用の実情】

「私の周りにはみんな高齢者。図書館は近くにないと。直接行けて、書架から見つけたり司書さんの推薦図書の紹介を見たりして借りている。書名を言って取り寄せてもらうなどめったにない。読書テラスになっても、できるだけ多くの蔵書とその場での貸し出しは最低これまで通りに。」

【子育て世代の利用の実情】

「羽ノ浦図書館には子供たちと頻繁に通っており、羽ノ浦図書館で本が借りられなくなると、子供たちの本を読む数は減ってしまいます。今の現状でさえ、子供たちに羽ノ浦図書館にない本があるからと、たまに那賀川図書館へ車で連れてってと言われるのに、さらに蔵書数を減らされては困ります。小さい子供も一緒だと、図書館に滞在できる時間も限られますので、本を借りて自宅で読める身近な図書館は貴重です。車でしか行けない図書館だと、宿題や習い事等で忙しい子供たちには、なかなか利用できなくなります。

今検討されているカフェやインドアパークは子供の成長には重要ではありませんし、近くになくても支障ありません。塾や自宅学習だけでは得られない知識が、近くにある羽ノ浦図書館で本を借りて家で読むことで得ることができます。

羽ノ浦図書館の蔵書数は増やし、図書館としての機能は現状維持もしくはさらなる充実を願っています。富岡ではなく、子供数の多い羽ノ浦にこそ、充実した図書館が必要だと思います。」

【中学生の保護者の方から】

「中学生の娘は、図書館で勉強をして、合間に館内で読書もしているみたいです。大切な場所なんですよ。子どもたちの若い世代も、阿南市の図書館がどうなるのか、期待をしています。」

- 羽ノ浦・那賀川図書館に残る本の全てを貸し出しできないのか。
- 羽ノ浦・那賀川図書館へ、ひまわり号の巡回を定期的にしてほしい。

2. 阿南中央図書館(仮称)への期待と要望

- 南側の者としては、早く中央図書館を作ってほしい。

- 託児スペースを作ってほしい。子どもを預けてゆっくり選書がしたい。
- ティーンズ向けの文庫本を増やしてほしい。
- 勉強スペースは、個別の机を設置してほしい。2人がけ机に椅子が2脚用意されていても、知らない人の隣には座りづらい。机が(学校のような)個別であれば、物理的な距離は同じでも、座りやすい。(この要望は中央図書館だけでなく、羽ノ浦・那賀川両図書館の改修で個人学習スペースを設ける際にも、あわせてご検討いただけたらとのことです。)
- 開館時間をもっと長くしてほしい。塾までの時間を過ごすには、18:00 までだと早過ぎる。

3. 施設の活用についての提案

- 羽ノ浦図書館か那賀川図書館にできる空きスペースに、第3の居場所を作ってはどうか(不登校やひきこもりの支援として)。

4. 市民参加・情報提供のあり方について

「市民が意見を表明する手段(情報公開請求や質問状など)について、関心はあるものの、実際にはハードルが高いと感じている方も少なくないと思います。書き方や手続きについて、もう少し分かりやすく支援や案内があると、市民参加が進むのではないかと感じました。

また、資料の確認や情報収集についても、個人の環境に左右されやすく、十分に行うことが難しい場合があります。今後、公共的な情報や手続きにおいて、インターネットや関連媒体をより積極的に活用していくのであれば、市として誰もが利用しやすい形での情報提供やサービスの整備をお願いしたいと考えます。現状では、それらが個人の責任に委ねられている側面もあるのではないかと感じています。

さらに、公共的な取り組みには費用が伴うものが多く、市民の負担や公平性についても考える必要があると思います。公共の福祉の観点から、誰もが納得できる形での施策運営が望まれると感じました。」

5. おわりに

寄せられた声に共通しているのは、「歩いて・気軽に行ける距離に、本を借りられる図書館があること」への切実な思いと、新しい中央図書館への素直な期待の両方です。私どもは、この二つは両立できると考えております。皆さまの声を、今後のご検討の参考としていただけましたら幸いです。